

新たな国立公文書館建設に関する基本計画（概要）

建物の概要

場所：国会前庭（憲政記念館敷地）

建物：地上3階地下4階程度

総建物面積：約42,000㎡

←憲政記念館・駐車場を含む面積

工事費：約480億円

（什器等諸費用を除く。）

工期：約8年半

※ 現時点の試算であり、今後の物価変動、
詳細検討により変動する可能性がある。

設計に当たっての基本的な考え方

国立公文書館

＜世界に誇れる国民本位の施設の実現を目指す＞

- ・公文書の重要性を象徴するような空間づくり
- ・我が国の歴史と伝統を踏まえた**品格ある外観**
- ・様々な世代の人々に利用される拠点としての利便性に配慮

独自性への配慮

- ・両館の異なる歴史と役割、立法府と行政府の独立性に鑑み、それぞれの特徴を踏まえた機能配置・外観
- ・とりわけ**外観については両館の独自性が充分表現されるよう**配慮

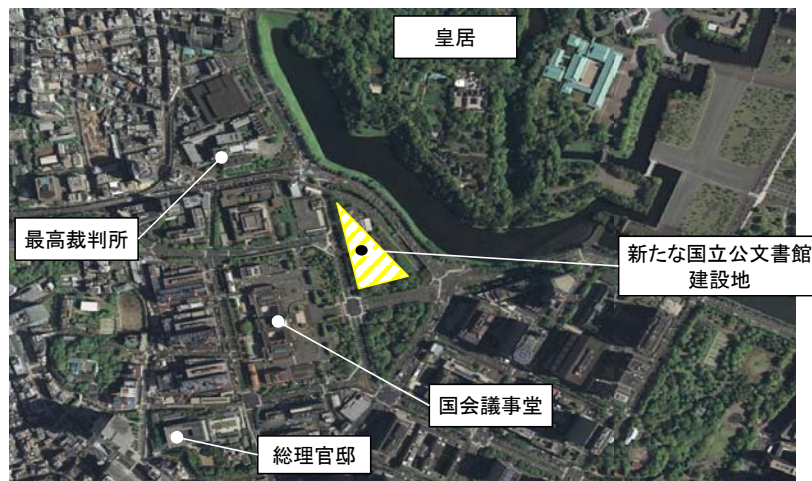
利便性及び合理性

- ・両館と一緒に建築されるメリットを活かし、共同使用部分については機能的な調整を図り、全体として**合理的な施設**とするとともに、**来館者の利便性向上を図る**工夫を行う

憲政記念館

- ・現状の利便性の維持
- ・現在の建物が有する歴史的価値を尊重し、ビルディングエレメントや単位空間の活用や再築を検討

新館のポイント



国の三権が集中する**最高の立地**を活かし、
広い世代の国民に「国のかたちや国家の記憶」を伝える

（今後の検討）

- ・音声・映像等の多様な資料や先端技術を活用した展示手法
- ・所蔵資料に合わせた効率的な書架形式やICTの活用を通じた文書管理技術

等

日本国憲法
(御署名原本)

徳川実紀
(御実紀)

日本書紀
(現存最古の全巻揃い)

平成の書

新館での機能拡充により、極めて
幅広い年代の所蔵資料をさらに活用、
文書の原本＝「本物」に触れる体験を
提供

修復が必要な劣化資料の例

日本国皇太子殿下並びに
デンマーク皇太子同妃両殿下
の特別展御視察

修復・デジタル化等の先端技術
を活用した**国内のセンター拠点**
人材育成や情報ネットワークを
通じ**国際的な情報センター拠点**
としても機能

新館建設後の国立公文書館（3館）の体制

新館

歴史公文書等の保存・利用等の取組推進拠点
基幹的業務を担い、3館の連携の中心的な役割
多くの国民が利用する展示・閲覧を中心とした総合的施設

主な機能	主な諸室	面積（目安）
展示・学習	展示室、体験支援室 等	約2,400㎡
	現状：420㎡（北の丸）→約6倍	
調査研究 支援	閲覧室、参考資料室 等	約1,500㎡
	現状：340㎡（北の丸）→約4倍	
保存	書庫、修復作業室 等	約10,000㎡
	現状：14,940㎡（北の丸・つくば）→3館合計で約2倍	
デジタル化	複製物作成室 等	約600㎡
	現状：専用スペースなし→新設	
交流	エントランス、来館者用スペース 等	約700㎡
	現状：専用スペースなし→新設	

他に執務室・廊下等の諸室を備える。

北の丸

国内外の行政官等向け研修等を実施する学習拠点
と研究者向け書庫

※ 経年による老朽化への対応策を必要に応じ検討。諸機能を適切に果たせるよう、施設の在り方について長期的な観点から検討。

つくば

受入れ機能を集約するなど保存機能（書庫等）に特化

工事期間中の憲政記念館仮施設

場所：千代田区永田町1丁目8-1等
（国会参観バス駐車場北側）

使用期間：遅くとも2021年度から工事に着手、
新たな施設完成時まで使用

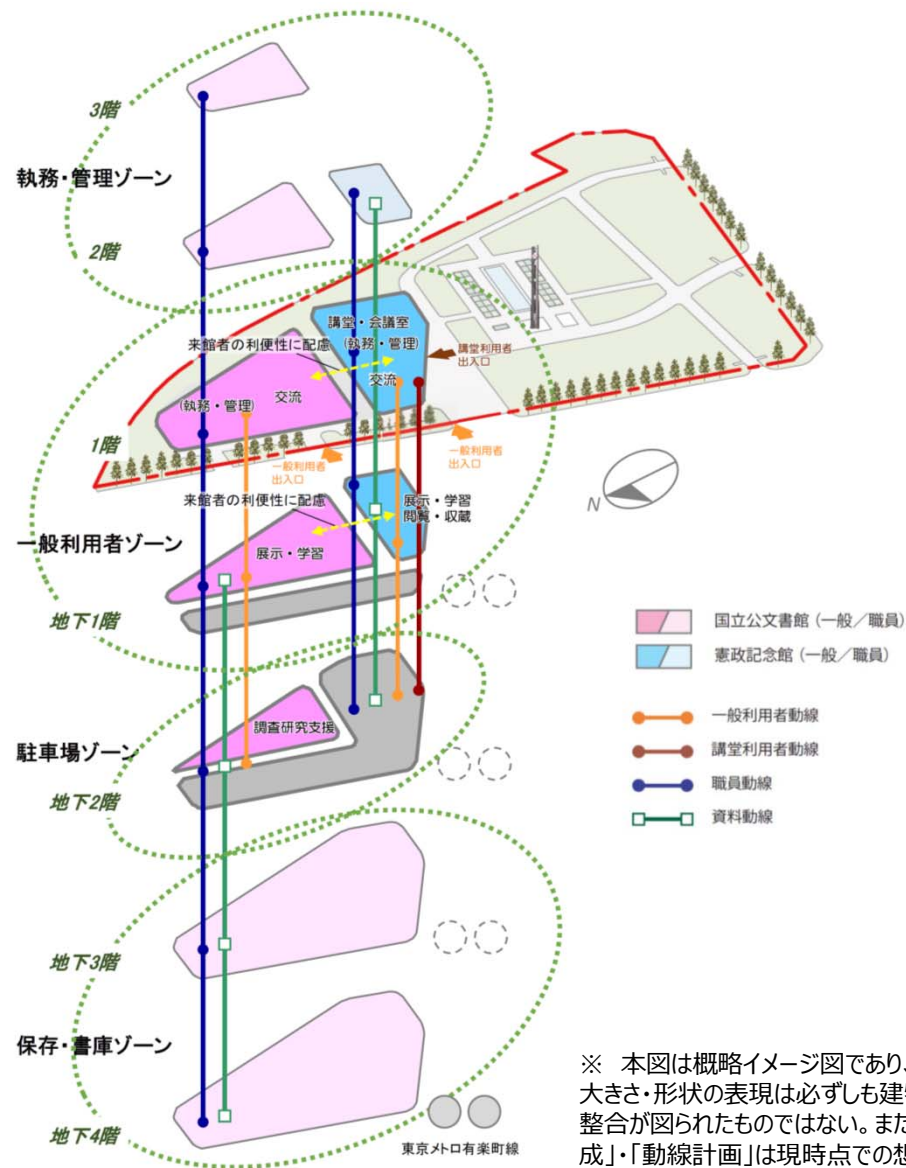
主要諸室：会議室、展示室、収蔵庫、事務室

今後の進め方（予定）

2018年度～ 基本設計→実施設計
2021年度～ 建設工事
2026年度 施設完成・開館

階層構成・動線計画のイメージ

【一般利用者の移動距離をコンパクトにしたパターン】



※ 本図は概略イメージ図であり、各ゾーンの大きさ・形状の表現は必ずしも建物面積等と整合が図られたものではない。また、「階層構成」・「動線計画」は現時点での想定であり、今後設計の進捗に応じて詳細を検討する。